

## 樽一物語 樽一のはじまり~その2 日本酒

今の「樽一」も日本酒へのこだわりは強く、全国各地の蔵元から様々な銘酒を取り寄せてお出しさせていただいている。

日本酒へのこだわりも、創業者佐藤孝譲りである。

鯨類研究所を退所後、佐藤孝はいくつもの会社を転々とし、その職種は、ホテルマン、ベッドのセールスマン、運転手、経理事務など様々であり、7回も転職を重ねた。経理事務をしていた会社で食堂部門を任されたことが居酒屋を創業するきっかけになったのであるが、居酒屋を始めようかと思案していた際、塩釜に蔵元がある「浦霞」が某新聞で紹介されていた。その記事は「越乃寒梅」と並んで「浦霞」を掲げ、その素晴らしさを紹介するものであった。

塩釜は佐藤孝の故郷矢本町の隣町で、「浦霞」の名は子供のころから地元の酒としてよく見聞きしていたものだった。

佐藤孝は「これだ！！」と確信し、「浦霞」をメインに飲ませる店とすることとしたのであった。

「浦霞」も当時本格的に東京へ進出しようと機会を伺っていた矢先であり、両者の目論見がぴったり合った。

酒好きが居酒屋を出すからには旨い酒を出したい。そして地元の酒が出せる。

当時「浦霞」はまだ東京ではあまり知られておらず、知る人ぞ知るという感じであった。

「ぜひこの地元の酒を東京に広げたい。そして、酒が地元ならばやはり出す料理も地元の三陸の味でなければ。」ということで、子供のころから慣れ親しんだ三陸の味、そして大学でも学んできた魚、貝、海藻などの海産物、そして鯨を出す。

店の大枠は決まった。